

SIP-adus Workshop 2020



Safety Assurance Session [アウトロ]

オーガナイザー：谷口 悟史(トヨタ自動車株式会社)
satoshi_taniguchi_ad@mail.toyota.co.jp

Safety Assurance Breakout Session [Test Scenario]

[概要]

社会的に受け入れられる自動運転（AD）の安全保証の方法論と基準は、自動運転の分野を持続可能で安全な方法で前進させるために重要です。

本セッションでは、ADシステムに関連する国際的な規制や基準が発展し続ける中、技術的な堅牢性と安全基準や規制の順守を確保するための取り組みに向けて、この分野の技術専門家間で情報交換と連携の可能性について議論を行います。

各10分のライブプレゼンテーション

Name	Affiliation
Biagio Ciuffo	Joint Research Centre (European commission)
Claus Pastor	BaST
Gil Amid	FORETELLIX
Roland Galbas	Bosch (SetLv4to5)
Zhao Wang	CATARC

8つの組織・プロジェクトから 代表者が参加予定

[議題]

1. 国際基準、国際標準を考える上でキーとなる安全性評価技術の共有
2. 検討している安全性評価技術の違いと互換性

Safety Assurance Breakout Session [Simulation]

[概要]

安全保証の適用範囲と効率を加速するためには、シミュレーション技術が鍵となります。
誤認識と未認識のテストするための認識外乱シミュレーションは、最も重要で複雑な課題の1つです。
安全性の保証に利用するために、いつまでシミュレーションを利用できるのか、
どこまで物理モデルを実装する必要があるのかのロードマップ、コラボレーションについて議論します。

Name	Affiliation
Hein Matthias	Technische Universität Ilmenau (VIVALDI lead)
Frank Gruson	Continental AG (VIVALDI)
Stefan Schneider	Kempton University of Applied Sciences

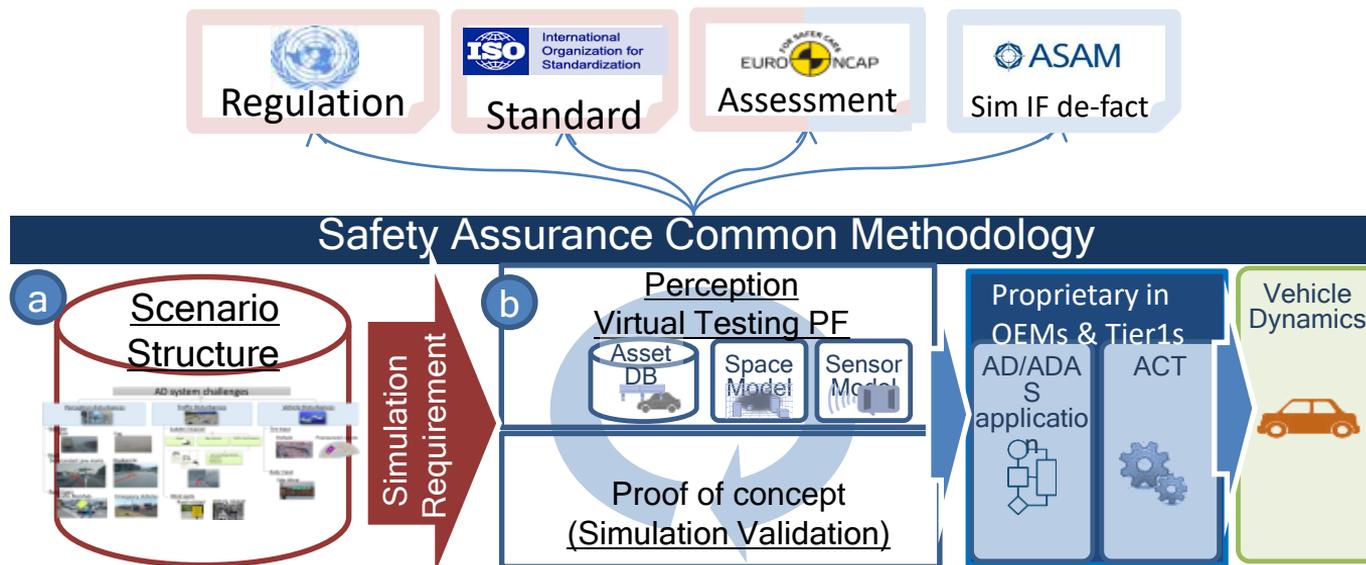
[議題]

- 認識外乱シミュレーションへの要求
- 妥当性検証のクライテリアと手法
- シミュレーションのインターフェース

独VIVALDI、日DIVP/JAMAのエキスパートが参加

Safety Assurance collaboration items

- a
 - 1. 安全性評価シナリオの共通化
 - 2. シミュレーション技術に対する共通の要求(特に認識評価)
- b
 - 1. 仮想環境技術の妥当性評価基準と手法
 - 2. 仮想環境の共有インターフェース



Safety Assurance

ご清聴ありがとうございました

[Contact] satoshi_taniguchi_ad@mail.toyota.co.jp